

北海道森高等学校

課程 全日制
学科 総合学科
生徒数 353名

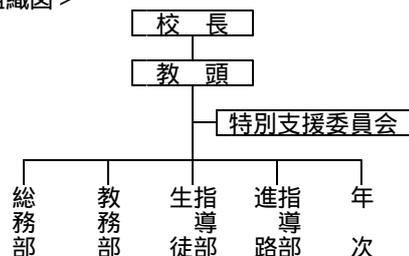
1 取組の特徴

スクールカウンセラーと連携したコミュニケーションスキル養成トレーニングを1年次を対象に実施する。

2 取組のねらい

- 1 予防的・開発的な教育相談の手法による生徒への支援
- 2 集団カウンセリングによる人間関係づくりの支援
- 3 定期的なトレーニングによるコミュニケーションスキルの育成

<組織図>



3 取組の経過

- 4月 宿泊研修におけるソーシャルスキルトレーニング
- 7月 子ども理解支援ツール「ほっと」を1年次を対象に実施
- 8月 スクールカウンセラーと連携したコミュニケーションスキル養成トレーニングを1年次を対象に実施
全教員を対象にした研修を実施
- 9月～12月 スクールカウンセラーと連携したコミュニケーションスキル養成トレーニングを1年次を対象に月1回実施
ボランティア活動等におけるコミュニケーションスキルの活用
- 12月 子ども理解支援ツール「ほっと」を1年次を対象に実施

4 取組の内容

1 宿泊研修におけるコミュニケーショントレーニング

1年次生が入学直後の4月に実施した宿泊研修のプログラムの中で、よりよい人間関係を築くためのコミュニケーショントレーニングを実施した。入学直後ということもあり、初めは遠慮がちでぎこちない雰囲気であったが、次第になごやかになり、クラスの中で人間関係を深めることができた。



【宿泊研修の様子】

2 スクールカウンセラーによるコミュニケーショントレーニング

本年度、スクールカウンセラーに来校いただき、8月から12月まで1年次生を対象に、アサーショントレーニング（表現力を育む集団体験学習）を中心としたプログラムを実施した。

このプログラムによるトレーニングを重ねることにより、個々の生徒が、コミュニケーションの重要性に気づき、自己開示によって温かな人間関係を形成する力や高校卒業後も社会に通用するコミュニケーションスキルを伸ばすことができると考えている。



【コミュニケーショントレーニングの様子】

3 地域との連携によるコミュニケーションスキルを活かしたボランティア活動

ボランティア部や生徒会執行部を中心に、これまでの取組で身に付けたコミュニケーションスキルを活かす機会として、地元商店街や老人ホーム等でボランティア活動を行った。

地域住民とふれあうことで学習内容を振り返ることができたり、高齢者の話し相手になることで人と人とのふれあいの大切さを感じたりすることができた。



【ボランティア活動の様子】

5 次年度に向けて

1 成果

- (1) 中途退学者数及び不登校生徒数の推移
1年次生の中途退学者数は減少したが、不登校生徒数は前年度と同様であった。
- (2) その他の指標による評価
1年次生の「一人当たりの欠席日数」は減少した。
- (3) 子ども理解支援ツール「ほっと」実施により把握した生徒のコミュニケーションスキルの概況
7月の実施結果において、課題であった項目のうち「発言や説明」、「リーダーシップ」については、12月調査において改善が顕著であったが、「緊張」、「助言や注意」については、12月調査においても改善が見られなかったことから、次年度の課題となった。
- (4) 生徒の変容した姿
コミュニケーションスキルは、トレーニングにより向上することを理解できた。

2 課題

- (1) トレーニングで身に付けたコミュニケーションスキルを日常生活においても使えるよう習慣化する必要がある。
- (2) 予防的・開発的な教育相談の手法による生徒への支援をより充実させる必要がある。

3 次年度に向けて

- (1) 1年次生については、4・5月に集中してピア・サポートやコミュニケーショントレーニングを実施する。
- (2) 2年次生については、クラス替え直後であることから、新しい集団づくりを意識したトレーニングを実施する。